いちのみやしょうつうしん
一宮小通信
令和８年10月30日 Ｎｏ．16

笑顔いっぱいの学校
自ら考え行動し、たくましく生きる子どもの育成

「図書館祭り」



10月２８日、図書委員会が主催した「図書館祭り」がありました。はじめに、5年生児童が『おいしいお米をつくりたい！』という本を読んで書いた読書感想文を読みました。本は、小学生がお米作りに挑んだ物語で、読書感想文「両親といどんだ初めてのお米づくり」には、初めて挑戦したお米作りの体験やご両親への思いが、本の主人公の行動から考えたこと、主人公への思いとともに、生き生きと書かれています。１２００字の長文にも関わらず、子どもたちも引き込まれてじっと聞き入っていました。続いて、図書委員会の児童が、『ともだちや』の絵本を劇にして表現してくれました。絵本からそのまま飛び出したように、小道具も使いながら演じ、拍手喝采となりました。劇の後は、図書委員会が、昔話クイズを10問出して、みんなで解きました。最後に、「読書の山登り」の3合目、5合目に到達した児童の紹介があり、みんなで拍手を送りました。図書委員会が、9月からの練習の成果をいかんなく発揮した「図書館祭り」。子どもたちの「読書の秋」へとつながることと思います。

「読書の秋」へ



朝晩の気温が下がり、秋めいてきました。これから「読書の秋」を充実させたいと思います。昨年度から、読書活動の推進をしてきました。雨の日等の休み時間に図書室で過ごす「ライブラリーデー」でも、皆が本の世界に浸り読みふけるようになっています。先日、5年生児童から「学級文庫の本はもうおおかた読んだ」「絵ばかりの本より、文字がいっぱいの本の方がおもしろい」という言葉を聞き、日常的に本に親しんでいること、本を読む力が伸びていることを改めて感じ、とても嬉しく思いました。今、AIが急速に進化しています。人とAIの大きな違いは「想像力」や「考える力」にあり、この力は、人が生きる上でこれから一層重要になると思います。そのためにも、読書は、欠かせないと考えています。絵本、読み物、図鑑、…本の世界は無限に広がっています。「読書の秋」、子どもたちが読書の楽しさをより味わい、本を読むことで「想像力」「考える力」をつけてほしいと願っています。ご家庭でも本を読んでいたら、ほめていただければ幸いです。

避難訓練（火災）

10月２９日、避難訓練をしました。今回は、火災の避難訓練。６月に起こった東京都の小学校火災を受け、普段火の気がないところから出火した場合、どう避難をするのかの訓練として、出火元を職員室と想定して行いました。出火想定の時刻、職員室の職員で手分けをして、119番通報と避難誘導に分かれ、訓練に入りました。職員室からの出火で、放送設備も動かない想定だったので、校長が大きな声で、火事と出火元を知らせました。それを聞いて、子どもたちと職員は、職員室からより遠いルートを通って、安全な場所に避難をしました。3年生が2階渡り廊下から北校舎に行き、東の外階段を使って外に出るなど、全員、一宮コミニュティーセンターの駐車場に避難しました。子どもたちは、地域の防災訓練等の経験も活かして、煙を吸わないようにハンカチで口元を押さえ、静かに迅速に避難することができました。子どもたちの安全を守るべく、火災を起こさない最大の注意努力、点検等をするのはもちろんのこと、今回の訓練で出た課題を、解決、改善して参ります。子どもたちには、いつどこで火災にあっても、自分の命を守れる力を今後もつけていきたいと思います。

